

1) 関西医科大学附属病院心療内科

①特徴

当科は1993年の誕生以来、慢性痛と機能性消化器疾患(FGID)に軸を置いた臨床を実践している。FGIDでは痛みを主訴とすることも多く、全外来患者の40~50%が痛みを問題として受診している。当科ではこういった患者に対し薬物療法だけでなく、心理療法、理学療法、運動療法、リラクゼーションなどの身体的療法も加えた心身医学療法を行なっている。複雑な病態を持った患者には、入院による病態評価、短期治療も行なっている。全国で心療内科の単独講座を持つのはわずか7大学のみであり、その中でも当科は最も慢性痛に力を注いでいると自負している。慢性痛の分野で近縁重視される心身医学的治療について、全国でもトップレベルの医療を提供しているといえる。

②診療連携

合計9症例について、診療連携をした。以下に詳細を報告する。

・篤友会千里山病院／リハビリテーションクリニック

当科から篤友会リハビリテーションクリニックへ、外来リハビリテーション目的で慢性疼痛、歩行障害の1症例を紹介した。→8月下旬に初診予定。

篤友会千里山病院へ入院および外来リハビリテーション目的で身体症状症、腰・左下肢痛の1症例を紹介した。→月1回程度継続通院中。

・大阪大学附属病院

大阪大学附属病院麻酔科から、病態評価、心身医学的治療目的で6症例の紹介を受けた。中枢介在性腹痛症候群が2例、筋骨格系慢性疼痛が4例で、当科へ外来通院中である。

→5名は継続通院。中枢介在性腹痛症候群の1名は症状はあまり変わらないがもともと通院希望は低く終診となった。他は当科へ外来通院中である。

・京都府立医大北部医療センター

京都府立医大北部医療センターペインクリニックから、病態評価、心身医学的治療目的で1症例の紹介を受けた。機能性胆嚢オッジ括約筋障害、大後頭神経痛として当科へ外来通院中である。→痛み症状は軽快し、残る不安障害の加療目的で京都府立医大北部医療センター精神科へ紹介し当科は終診となった。

③研修会

研修会は実施していない。

④施設訪問

この期間の施設訪問はなかった。

⑤その他

8月にWebカンファレンスを開催した。約1時間で**人参加。相互紹介患者（受診予定含む）の情報共有、新規患者を他院心療内科へ紹介した経緯、心療内科と精神科の守備範囲などについて活発な議論を交わした。今後も月1回開催予定。